

授業概要（シラバス）

＜理学療法学科 3 学年＞

令和6年度

学校法人 君津あすなろ学園
千葉医療福祉専門学校

学年別科目一覧

	科目名	備考	開講期	分野	単位	時間	コマ数	PT科担当	OT科担当	非常勤講師	
1 学 年	心理学	前期分	通年	基礎分野	2	60	30	富永	兼子,原,早川,他	渡邊壽	
	心理学	後期分	通年	基礎分野	2	60	30	富永	兼子,原,早川,他	渡邊壽	
	情報コミュニケーション学Ⅰ		前期	基礎分野	1	15	8	小林			
	情報コミュニケーション学Ⅱ		前期	基礎分野	1	15	8	小林			
	情報コミュニケーション学Ⅲ		前期	基礎分野	1	15	8	小林			
	公衆衛生学		後期	基礎分野	1	15	8	秋山	武井	小倉康平	
	基礎演習Ⅰ	前期分(解剖学)	通年	基礎分野	2	30	18	秋山,富永			
	基礎演習Ⅰ	後期分(解剖学)	通年	基礎分野	2	30	18	秋山,富永			
	基礎演習Ⅱ	前期分(生理学)	通年	基礎分野	2	30	18	小林,富永			
	基礎演習Ⅱ	後期分(生理学)	通年	基礎分野	2	30	18	小林,富永			
	基礎数理学		通年	基礎分野	2	30	18	小林,秋山	金谷		
	健康と身体		通年	基礎分野	1	30	15	富永	金谷,兼子,武井	川原元	
	社会福祉概論		後期	基礎分野	1	30	15	秋山	武井	佐藤真生子	
	人体の構造Ⅰ		前期	専門基礎分野	1	30	15	秋山	金谷		
	人体の構造Ⅱ		後期	専門基礎分野	1	30	15	秋山	金谷		
	人体の構造Ⅲ		前期	専門基礎分野	1	30	15	岡村	原		
	人体の構造Ⅳ		後期	専門基礎分野	1	30	15	秋山	原		
	人体の機能Ⅰ		前期	専門基礎分野	1	30	15	岡村	武井		
	人体の機能Ⅱ		後期	専門基礎分野	1	30	15	岡村	武井		
	運動学Ⅰ		後期	専門基礎分野	1	30	15	藤原	金谷		
	リハビリテーション医学Ⅰ 栄養予防		後期	専門基礎分野	2	30	15	富永	兼子	岩崎麻美	
	病理学		後期	専門基礎分野	1	30	15	藤原,小林,秋山,岡村,富永			
	リハビリテーション概論Ⅰ	前期分	通年	専門基礎分野	2	60	30	秋山	兼子	その他	
	リハビリテーション概論Ⅰ	後期分	通年	専門基礎分野	2	60	30	秋山	兼子	その他	
	理学療法概論	前期分	通年	専門分野	2	60	30	秋山,岡村			
	理学療法概論	後期分	通年	専門分野	2	60	30	秋山,岡村			
	基礎理学療法Ⅰ		後期	専門分野	1	30	15	秋山,岡村,富永			
	理学療法評価学Ⅲ (ROM)		後期	専門分野	1	30	15	富永			
	地域リハビリテーション		後期	専門分野	1	30	15	藤原		安藤雅治,ゴルディオックス	
	職業リハビリテーション		後期	専門分野	1	15	8	小林			
	リハビリテーション機器		前期	専門分野	1	30	15	藤原		安藤雅治	
	地域リハビリテーション実習		通年	専門分野	1	40		秋山			
	ソーシャルアクティブラーニング		通年	その他	1	30	15	藤原,小林,富永		志電健一郎	
	総合共同演習Ⅰ		前期	その他	1	15	8	藤原,小林,秋山,岡村,富永			
	総合実践演習Ⅰ		後期	その他	1	15	8	藤原,小林,秋山,岡村,富永			
	総合問題演習Ⅰ		通年	その他	1	15	8	藤原,富永			
	臨床思考演習Ⅰ		通年	その他	1	15	8	藤原,富永			
	2 学 年	人間発達学		前期	基礎分野	1	30	15	岡村	金谷	
		人体の構造実習		通年	専門基礎分野	1	30	15	藤原,小林	金谷	
		人体の機能実習		前期	専門基礎分野	1	30	15	藤原	金谷,武井	
運動学Ⅱ			前期	専門基礎分野	1	30	15	藤原,富永	武井		
運動学Ⅲ			後期	専門基礎分野	1	30	15	小林	金谷		
運動解剖学			後期	専門基礎分野	1	15	8	藤原,小林		須藤祐亮	
運動生理学			前期	専門基礎分野	1	30	15	岡村,富永			
リハビリテーション医学Ⅱ 薬理			前期	専門基礎分野	1	15	8	岡村	兼子	富沢道徳	
内科学		前期分	通年	専門基礎分野	2	60	30	岡村,富永	武井	庄司行孝	
内科学		後期分	通年	専門基礎分野	2	60	30	岡村,富永	武井	庄司行孝	
運動療育論学		前期分	通年	専門基礎分野	2	60	30	藤原,富永	武井	保住寛	
運動療育論学		後期分	通年	専門基礎分野	2	60	30	藤原,富永	武井	保住寛	
臨床神経学Ⅰ			前期	専門基礎分野	1	15	8	秋山,岡村			
臨床神経学Ⅱ			後期	専門基礎分野	1	15	8	秋山,岡村			
精神医学		前期分	通年	専門基礎分野	2	60	30	岡村	隈部		
精神医学	後期分	通年	専門基礎分野	2	60	30	岡村	隈部			
臨床心理学		前期	専門基礎分野	1	30	15	岡村		渡邊壽		

2 学 年	リハビリテーション概論Ⅱ	前期分	通年	専門基礎分野	2	60	30	藤原	早川	
	リハビリテーション概論Ⅱ	後期分	通年	専門基礎分野	2	60	30	藤原	早川	
	基礎理学療法Ⅱ		前期	専門分野	1	30	15	小林,秋山,岡村		
	基礎理学療法Ⅲ(正常発達)		後期	専門分野	1	15	8	岡村		
	理学療法評価学Ⅰ		前期	専門分野	1	30	15	秋山,富永		
	理学療法評価学Ⅱ		後期	専門分野	1	30	15	秋山,富永		
	理学療法評価学Ⅳ(MMT)		前期	専門分野	1	30	15	富永		
	理学療法評価学Ⅵ(画像診断)		後期	専門分野	1	15	8	藤原		本間星美
	理学療法評価学演習		後期	専門分野	1	30	15	藤原,小林,秋山,岡村,富永		
	物理療法Ⅰ		前期	専門分野	1	15	8	秋山		
	物理療法Ⅱ		後期	専門分野	1	30	15	岡村		
	鍼灸学		後期	専門分野	1	20	10	藤原		
	鍼灸学		後期	専門分野	1	30	15	小林		
	日常生活動作Ⅰ		前期	専門分野	1	30	15	秋山		
	日常生活動作Ⅱ		後期	専門分野	1	30	15	富永		
	寛性疾患理学療法治療学		後期	専門分野	1	30	15	小林		本間星美
	住宅改修		後期	専門分野	1	30	15	富永		本間星美
	臨床計測実習		後期	専門分野	1	40		富永		
	総合共同演習Ⅱ		前期	その他	1	15	8	藤原,小林,秋山,岡村,富永		
	総合問題演習Ⅱ		通年	その他	1	15	8	藤原,富永		
臨床思考演習Ⅱ		通年	その他	1	15	8	藤原,富永			
運動学実習		前期	専門基礎分野	1	30	15	藤原,小林,岡村			
3 学 年	リハビリテーションⅢ 工学		後期	専門基礎分野	1	30	15	藤原		その他
	救急救命法		前期	専門基礎分野	1	30	15	藤原		日本赤十字
	理学療法研究法		通年	専門分野	1	30	15	小林		
	理学療法管理学		前期	専門分野	2	30	18	藤原		松田徹
	理学療法評価学Ⅴ(高次版)		前期	専門分野	1	15	8	岡村		安藤龍治
	鍼灸鍼灸学実習		後期	専門分野	1	30	15	藤原		安藤,志垣
	動作分析		前期	専門分野	1	30	15	秋山,岡村		
	整形外科理学療法治療学Ⅰ		前期	専門分野	1	30	15	小林,岡村		
	整形外科理学療法治療学Ⅱ		後期	専門分野	1	30	15	秋山,岡村		
	中枢神経疾患理学療法治療学Ⅰ		前期	専門分野	1	30	15	藤原		倉山太一
	中枢神経疾患理学療法治療学Ⅱ		後期	専門分野	1	30	15	岡村		
	スポーツ疾患理学療法治療学		後期	専門分野	1	30	15	藤原		奥村麻耶,本間秀文
	呼吸器疾患理学療法治療学		前期	専門分野	1	30	15	藤原		新堀健士
	小児理学療法治療学		前期	専門分野	1	30	15	藤原		平野いづみ
	老年期理学療法治療学		後期	専門分野	1	15	8	秋山		安藤龍治
	循環・代謝疾患理学療法治療学		後期	専門分野	1	30	15	秋山		新堀健士
	理学療法技術Ⅰ		前期	専門分野	1	15	8	藤原,秋山,岡村		
	理学療法技術Ⅱ		前期	専門分野	1	30	15	小林,秋山,岡村,富永		
	臨床評価実習		後期	専門分野	4	180		藤原		
	総合共同演習Ⅲ		前期	その他	1	15	8	藤原,小林,秋山,岡村,富永		
	総合実習演習Ⅱ		後期	その他	1	15	8	藤原,小林,秋山,岡村,富永		
	総合問題演習Ⅲ	前期分	通年	その他	2	60	30	藤原,小林,秋山,岡村,富永		
	総合問題演習Ⅲ	後期分	通年	その他	2	60	30	藤原,小林,秋山,岡村,富永		
	臨床思考演習Ⅲ		通年	その他	1	15	8	小林		
	卒業研究Ⅰ		後期	その他	1	15	8	藤原,小林,秋山,岡村,富永		
	4 学 年	臨床総合実習		前期	専門分野	14	830		小林	
総合問題演習Ⅳ			通年	その他	2	120	60	小林		
臨床思考演習Ⅳ			通年	その他	1	20	10	小林		
卒業研究Ⅱ			前期	その他	1	30	15	藤原,小林,秋山,岡村,富永		

PT3年	前期	講義概要	一般目標
専門基礎分野		各グループ（7名前後）別に、3つの課題に対してそれぞれ観察や実際のデータ収集を行い、理解を深めていく。また、学生は各自レポートを作成する。	各担当教員からの説明を参照
運動学実習			
専門基礎分野	時間数 1 コマ数 30		
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：	○藤原,小林,岡村		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	各課題に対する調べ学習①	オリエンテーション, 課題についての説明	
2	各課題に対する調べ学習②	実習課題に取り組む前に必要な知識について調べ学習をしまとめる	
3	課題1 Biodexを使用した筋力測定	大腿四頭筋、ハムストリングスの筋力を測定することにより、WBI/HQ比を算出する。	
4	課題1 Biodexを使用した筋力測定	大腿四頭筋、ハムストリングスの筋力を測定することにより、WBI/HQ比を算出する。	
5	課題1 Biodexを使用した筋力測定	大腿四頭筋、ハムストリングスの筋力を測定することにより、WBI/HQ比を算出する。	
6	課題2 呼気ガス分析装置を使用した運動負荷試験	エアロバイク、呼気ガス分析装置を使用した運動負荷試験を行うことで、運動耐用能の評価を行う。	
7	課題2 呼気ガス分析装置を使用した運動負荷試験	エアロバイク、呼気ガス分析装置を使用した運動負荷試験を行うことで、運動耐用能の評価を行う。	
8	課題2 呼気ガス分析装置を使用した運動負荷試験	エアロバイク、呼気ガス分析装置を使用した運動負荷試験を行うことで、運動耐用能の評価を行う。	
9	レポート作成補助	嫌気性代謝閾値について説明できる。	
10	レポート作成補助	嫌気性代謝閾値について説明できる。	
11	レポート作成補助	嫌気性代謝閾値について説明できる。	
12	データ処理	データをまとめ、グラフや表を作成する。	
13	レポート作成①	上記実習に対しレポートをまとめる。	
14	レポート作成②	上記実習に対しレポートをまとめる。	
15	レポート作成③	上記実習に対しレポートをまとめる。	
教科書・参考書・資料			
資料：適時配布する。			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点：100%		各実習の持ち物、注意点は実習前に各教員に確認してください。	

PT3年	後期	講義概要	一般目標
専門基礎分野		リハビリテーション医が行う診断や機能評価について理解を深める。対象患者にそれぞれの職種がどういう立場に関わり、チームとしてどう貢献していくのかを考えることができるようにする。福祉工学とリハビリテーション工学についての基礎的な理解を深める。	リハビリテーションを実施するうえで基礎となる医学的内容を学習する。バイオメカニクス、特に福祉工学とリハビリテーション工学の基礎的な内容を学習する。
リハビリテーション医学Ⅲ 工学			
専門基礎分野	時間数 1 コマ数 30		
理学療法学科：	○藤原		
作業療法学科：			
非常勤講師：	その他		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	国際福祉機器展 参加準備【藤原 兼子】	国際福祉機器展 参加前情報収集 参加目的等を明らかにする	
2	国際福祉機器展 現地参加【藤原 兼子】	国際福祉機器展 現地参加 最新の機器などに触れ学習を深める 10月2日～4日のうち1日	
3	国際福祉機器展 現地参加【藤原 兼子】	国際福祉機器展 現地参加 最新の機器などに触れ学習を深める 10月2日～4日のうち1日	
4	国際福祉機器展 現地参加【藤原 兼子】	国際福祉機器展 現地参加 最新の機器などに触れ学習を深める 10月2日～4日のうち1日	
5	国際福祉機器展 現地参加【藤原 兼子】	国際福祉機器展 現地参加 最新の機器などに触れ学習を深める 10月2日～4日のうち1日	
6	国際福祉機器展 まとめ資料作成【藤原 兼子】	国際福祉機器展参加による学びをまとめる	
7	国際福祉機器展 参加報告【藤原 兼子】	国際福祉機器展参加体験を共有、学びを深める	
8	福祉用具【鈴木】①	福祉用具を活用したリハビリテーションの実践について学ぶ	
9	福祉用具【鈴木】②	福祉用具を活用したリハビリテーションの実践について学ぶ	
10	車椅子調整【志垣】	車椅子調整について学ぶ	
11	座位姿勢と嚙下【志垣】	座位姿勢と嚙下について学ぶ	
12	問題演習①【藤原 兼子】	国家試験で問われる内容について確認、解説を行う	
13	問題演習②【藤原 兼子】	国家試験で問われる内容について確認、解説を行う	
14	問題演習③【藤原 兼子】	国家試験で問われる内容について確認、解説を行う	
15	問題演習④【藤原 兼子】	国家試験で問われる内容について確認、解説を行う	
教科書・参考書・資料			
その時々の本授業に関するニュース、トピックスの新聞等のコピー			
判定基準/割合		履修上の留意点	
業点：0点 平常点：100点		随時、指示します。	

PT3年	前期	講義概要	一般目標
専門基礎分野		病气やけが、災害から自分自身を守り、けが人や急病人を正しく救助し、医師や救急隊に引き継ぐまでの救命手当・応急手当を行うための知識と技術を学ぶ。	適切な救命処置、応急手当ができるようになること。医療従事者としての自覚を養う事。
救急救命法			
専門基礎分野	時間数 1 コマ数 30		
理学療法学科：	○藤原		
作業療法学科：			
非常勤講師：	日本赤十字		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	救急救命法について	○救急救命法とは、実践する際の心得 ○手当の基本 ○傷病者への接し方	
2	救急救命法について	○救急救命法とは、実践する際の心得 ○手当の基本 ○傷病者への接し方	
3	一次救命処置について	○一次救命処置とは ○一次救命処置の手順 ○心肺蘇生法、気道確保、人工呼吸等について	
4	実技	○1、2回目の実技	
5	実技	○1、2回目の実技	
6	AEDの使用法	○AEDを用いた除細動 ○呼吸回復 ○体位の変換・気道内異物除去	
7	包帯法について	○三角巾包帯法（おり方・結び方・使い方）	
8	急病について	○心臓発作 ○脳卒中 ○熱中症、中毒	
9	怪我について	○応急手当の必要性 ○傷、骨折 ○各部のケガ	
10	怪我の手当てについて	○止血 ○固定法	
11	実技	○包帯法 ○固定法	
12	実技	○搬送	
13	実技	○救護	
14	実技	○総合実技（グループ救護シミュレーション）	
15	学科検定と実技試験	筆記・実技試験	
教科書・参考書・資料			
救急救命法（教本・教材セット）			
判定基準／割合		履修上の留意点	
学科検定・実技試験の合否をもって判定する。		日本赤十字が開講する講習会に3日間参加する。実習の参加にあたっては、清潔感ある容姿（頭髪など）であることが基本条件となる（実習に即した容姿の在り方を各自が判断できるように）。	

PT3年	通年	講義概要	一般目標
専門分野		<p>研究の意義、方法論の基礎について理解を深める。また、統計解析ソフトを使用した演習を通じて、研究デザインに合わせた統計解析方法について学ぶ。さらに、文献の読み方や文献研究の方法について、演習を通して実践力を養い、卒業論文の作成に活用できるようにする。</p>	<p>・研究の意義・方法論についての基礎知識を習得する。 ・演習を通して、習得した基礎知識の理解を深める。 ・各種統計解析が行えるようになることを目指す。 ・卒業研究テーマを決め、研究計画書（案）の作成を行う。</p>
理学療法研究法			
専門分野	時間数 1 コマ数 30		
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：	○小林		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	イントロダクション 研究の基礎知識とデザイン	臨床研究の意義やどのように臨床上の問題を解決していけば良いのかを理解する。研究デザインについて。研究の対象とバイアスについて理解する。	
2	統計の基礎とデータの要約	統計の意義や解析前にデータの概要を確認する重要性を理解する。	
3	2群のパラメトリック検定の理解と演習①	統計的検定の意味・外れ値の検定・対応のあるt検定・対応のないt検定について学ぶ	
4	2群のパラメトリック検定の理解と演習②	統計的検定の意味・外れ値の検定・対応のあるt検定・対応のないt検定を行い、結果の解釈について学ぶ	
5	3群のパラメトリック検定の理解と演習①	分散分析（ANOVA）・多重比較・水準・要因・主効果・交互作用などについて理解し、結果の解釈について学ぶ。	
6	3群のパラメトリック検定の理解と演習② ノンパラ検定	マン・ホイットニー検定・ウィルコクソンの符号付順位和検定・クラスカルウォリス検定・フリードマン検定について理解する。	
7	相関と回帰の理解と演習	相関分析・回帰分析・相関係数・回帰係数について理解し、結果の解釈について学ぶ。	
8	研究法まとめ①	国家試験によく出題される問題の対策を行う。	
9	研究法まとめ②	国家試験によく出題される問題の対策を行う。	
10	卒業研究オリエンテーション	卒業研究に向けて、概略・スケジュール等を説明するEBMの実践の流れを理解する。論文を読みPECOで要約する。	
11	研究デザインについて 文献研究の仕方	卒業研究で行う研究のデザインを検討する。メディカルオンライン、Cinil、googleを使用し文献研究の方法を演習する①	
12	研究テーマの決定・研究計画書の作成①	研究テーマの決定・研究計画書の作成（テーマと背景まで）①	
13	研究テーマの決定・研究計画書の作成②	研究テーマの決定・研究計画書の作成（テーマと背景まで）②	
14	研究テーマの決定・研究計画書の個別指導	各自、研究テーマ決めを行い、具体的な計画書を作成し個人指導を受ける。	
15	理解度確認	筆記試験により理解度を確認	
教科書・参考書・資料			
教科書：すぐできるリハビリテーション統計（南江堂） 参考書：医療系研究論文の読み方・まとめ方（東京図書） 資料：授業中に配布する			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点（10%） 素点（90%）		すぐできるリハビリテーション統計の統計ソフトを各自のPCにインストールしておくこと	

PT3年	前期	講義概要	一般目標	
専門分野		<p>将来医療従事者として病院・施設等で就業する際、心得ておくべきこと（医療人の資質、安全の確保、組織として職業人としての心得、教育成長、信頼獲得など）について、学習する。またリーダーシップ、マネジメント、医療介護環境の変化について学習し自己のキャリアデザインに活かせるようにする。</p>	<p>1. 社会人・医療人として、何を目指しどのように働くべきか（職業倫理）について考えを深める。2. 現場を管理運営するためのリーダーシップ・フォロワーシップの視点や組織マネジメントの方法論について学ぶ。3. 理学療法士としてのキャリアデザインに活用する</p>	
理学療法管理学				
専門分野	時間数 2			コマ数 30
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：	○藤原 松田徹			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標		
1	総論	理学療法管理学とは？管理者の役割、理学療法管理学を学ぶ意義などについて理解する		
2	専門職に求められる職業倫理/身分法と倫理綱領	インフォームド・コンセント、守秘義務、個人情報保護、プロフェッショナルとして求められるモラルやマナー、基本姿勢を理解する		
3	理学療法業務管理 1	病院・施設の組織について把握する。病院や施設に求められるコンプライアンスについて理解する。		
4	理学療法業務管理 2	療法士の業務の流れについて把握する。タイムマネジメントの重要性を理解し、獲得のための具体的な方法を体験する		
5	理学療法業務管理 3	労務管理について理解する（勤務体制、労働時間管理、ハラスメント対策など）		
6	理学療法業務管理 4	組織マネジメントについて理解する（リーダーシップ、人材管理など）		
7	多職種連携と地域連携 1	多職種連携の重要性とその実際について学ぶ。		
8	多職種連携と地域連携 2	地域包括ケアシステムについて理解し、地域における療法士の役割について学ぶ。		
9	医療の質とリスクマネジメント 1	医療の質とは。医療の質の低下要因。リハビリテーションの質の評価：実績指数。		
10	医療の質とリスクマネジメント 2	医療現場における事故とは。リハビリテーションにおけるインシデントの発生状況。インシデントレポートの重要性。インシデントの予防と是正のための取り組み		
11	理学療法士を取り巻く社会環境としての社会保障制度	医療保険・介護保険の基礎を理解する。		
12	理学療法士を取り巻く医療・介護環境の変化	医療・介護保険改定の変遷から理学療法士に求められる役割を理解する。		
13	理学療法士業務のパラダイムシフト	病院や施設から地域へ。公的保険（医療保険・介護保険）外での活躍の可能性など、理学療法士としての新たな働き方を理解し、自身のキャリアデザインに活かす。		
14	生涯学習	キャリア形成における個人成長の過程のイメージを知る。PTのキャリア形成における課題・問題について理解する。卒後教育（新生涯学習制度）の概要を理解する。		
15	筆記テスト	学習理解度の確認		
教科書・参考書・資料				
参考書：標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻「リハビリテーション管理学」・「リハビリテーション職種のマネジメント」・「リハビリテーション職種のキャリアデザイン」				
判定基準/割合		履修上の留意点		
能動的参加点10点、試験90点		-		

PT3年	前期	講義概要	一般目標
専門分野		脳の構造・機能を踏まえた上で、高次脳機能障害	高次脳機能障害を呈する患者に対しての評価のプロセスを 考えることができる
理学療法評価学Ⅴ（高次脳）			
専門分野	時間数 1 コマ数 15		
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：	○岡村 安藤龍治		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	高次脳機能の総論	高次脳機能と認知機能、それらの障害についての理解ができる	
2	高次脳機能障害の症状と在宅生活での現状	障害を呈する患者の生活像を知り、評価する意義を見出す	
3	原因疾患、錐体路障害との鑑別について	運動麻痺を併発しやすい高次脳機能障害を線引きをたどらせる	
4	記憶・注意障害の概論と評価	検査・評価・治療までのプロセスを知る	
5	失行・失認の概論と評価	検査・評価・治療までのプロセスを知る	
6	OT/STとのチームアプローチについて	他専門職の評価プロセス（失語含む）を知りPTとしての役割を学ぶ	
7	グループ内での口頭課題実施	グループ内のメンバーに高次脳機能障害の機序を説明できるか確認	
8	理解度の確認	筆記課題の実施。仮症例に対しての高次脳機能障害に対する評価プロセスを確認	
9	.	.	
10	.	.	
11	.	.	
12	.	.	
13	.	.	
14	.	.	
15	.	.	
教科書・参考書・資料			
資料を配布します			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点：10点 素点：口頭課題45点、筆記課題45点		評価実習を見据えた授業となります	

PT3年	後期	講義概要	一般目標
専門分野		<p>○実際の義肢、装具を用いてその特徴について学ぶ。○実際の切断者の歩行を観察したり、義足のリハビリテーションについて学習する。○義足歩行時の関節モーメント、筋パワーについて学ぶ。</p>	<p>○基本的な義肢、装具についてその特徴を理解する。また、異常歩行を力学的に判断し、アライメント補正の方法を理解する。</p>
義肢装具学実習			
専門分野	時間数 1 コマ数 30		
理学療法学科：	○藤原		
作業療法学科：			
非常勤講師：	安藤,志垣		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	装具の種類と治療への結び付け方	<p>装具の事前知識・体験の有無についてヒアリング 下肢装具を中心に、使用方法と治療への導き方を学ぶ</p>	
2	長下肢装具の使用法と評価	<p>長下肢装具の介助の実践・治療を意識した歩行介助</p>	
3	姿勢制御システムについて	<p>姿勢制御システムについて学ぶ</p>	
4	短下肢装具の使用法と評価	<p>短下肢装具の介助の実践・治療を意識した歩行介助</p>	
5	体幹装具に関して	<p>体幹装具の使用法と適用について学習する</p>	
6	装具処方について	<p>装具の作成過程と修理にPTがどこまで関与するのか</p>	
7	筆記課題	<p>疑似症例をもとに、装具処方・治療方針・ゴール設定を立案する課題に取り組む</p>	
8	テーピング①(藤原)	<p>テーピング総論について。使用目的や使用方法について。</p>	
9	テーピング②(藤原)	<p>各部位別のテーピング実技</p>	
10	テーピング③(藤原)	<p>各部位別のテーピング実技</p>	
11	テーピング④(藤原)	<p>各部位別のテーピング実技</p>	
12	テーピング⑤(藤原)	<p>各部位別のテーピング実技</p>	
13	テーピング⑥(藤原)	<p>各部位別のテーピング実技</p>	
14	テーピング⑦(藤原)	<p>各部位別のテーピング実技</p>	
15	テーピング⑧(藤原)	<p>各部位別のテーピング実技</p>	
教科書・参考書・資料			
<p>教科書：義肢・装具学 異常とその対応がわかる動画付き(羊土社) 参考書：関節モーメントによる歩行分析(医歯薬出版)、切断と義肢(医歯薬出版)、理学療法テキスト 義肢学(中山書店)、PT・OTビジュアルテキスト 義肢装具のチェックポイント(医学書院) 資料：適宜資料を配布する</p>			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点：100%		<p>2年後後に履修した義肢学を復習し、授業に向けた準備を行うこと。テーピングの授業は、ハーフパンツでの参加が望ましい。</p>	

PT3年	前期	講義概要	一般目標
専門分野		動作分析の基礎（観察と分析、動作の力学的捉え方、臨床での動作分析の進め方）について学ぶ。	動作分析を力学的に捉えられる。また、健常者の基本動作および各疾患特有の動作について対話的に説明できるようになる。
動作分析			
専門分野	時間数 1 コマ数 30		
理学療法学科：	○秋山,岡村		
作業療法学科：			
非常勤講師：			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	講義・オリエンテーション	動作分析の概念や手法について説明できる。授業内の課題について説明できる。	
2	中枢疾患課題の概要説明・レクチャー（岡村）	各課題ごとの講義を行う。課題の資料作成を進める。	
3	中枢疾患課題の概要説明・レクチャー（岡村）	各課題ごとの講義を行う。課題の資料作成を進める。	
4	中枢疾患のグループワーク（岡村）	担当課題のアウトプットと他者の課題のインプットを行う。	
5	中枢疾患のグループワーク（岡村）	担当課題のアウトプットと他者の課題のインプットを行う。	
6	中枢疾患のグループワーク（岡村）	担当課題のアウトプットと他者の課題のインプットを行う。	
7	中枢疾患課題の発表①（岡村）	担当課題の発表と質疑応答を行う。	
8	中枢疾患課題の発表②（岡村）	担当課題の発表と質疑応答を行う。	
9	整形疾患課題の概要説明・レクチャー（秋山）	各課題ごとの講義を行う。課題の資料作成を進める。	
10	整形疾患課題の概要説明・レクチャー（秋山）	各課題ごとの講義を行う。課題の資料作成を進める。	
11	整形疾患のグループワーク（秋山）	担当課題のアウトプットと他者の課題のインプットを行う。	
12	整形疾患のグループワーク（秋山）	担当課題のアウトプットと他者の課題のインプットを行う。	
13	整形疾患のグループワーク（秋山）	担当課題のアウトプットと他者の課題のインプットを行う。	
14	整形疾患課題の発表①（秋山）	担当課題の発表と質疑応答を行う。	
15	整形疾患課題の発表②（秋山）	担当課題の発表と質疑応答を行う。	
教科書・参考書・資料			
●参考書：石井慎一郎『動作分析 臨床活用講座』MEDICAL VIEW 2013 ●その他必要に応じてプリント配布			
判定基準／割合		履修上の留意点	
平常点：中枢45点 整形45点 出席10点		平常点はレポートにて判定する。中枢は7コマ目の授業開始時まで、整形は13コマ目の授業開始時まで提出すること。	

PT3年	前期	講義概要	一般目標
専門分野		理学療法の大半を占める整形外科疾患について、代表的な疾患の病態把握、理学療法評価・治療プログラム立案・実際の基本的な治療方法などを学ぶことを目的とする。	各疾患における障害像の把握・疾患の理解・理学療法評価の方法・問題点抽出・治療プログラム立案・治療実施ができるようになる。
整形疾患理学療法治療学Ⅰ			
専門分野	時間数 1 コマ数 30		
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：	○小林,岡村		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	外傷総論（岡村）	整形外科領域における外傷性疾患に関する全体像と治療方針を学ぶ	
2	腱損傷（岡村）	腱の治療過程と治療方針について、アキレス腱断裂を例にして学ぶ。	
3	腱損傷（岡村）	アキレス腱損傷後の二次的障害について学ぶ	
4	腱損傷（岡村）	アキレス腱損傷後の二次的障害について学ぶ	
5	筋損傷・皮膚損傷・靭帯損傷（岡村）	筋、皮膚、靭帯の治療過程と治療方針について、大腿骨頭部骨折とTHA術後を例にして学ぶ。	
6	症例検討～THA術後～（岡村）	外傷性疾患の症例検討として、THAを例に、主にリスク管理（脱臼管理・ゆるみ・DVT）について学ぶ。	
7	変形性股関節症の評価と治療（岡村）	退行変性疾患の介入方法を代表的な変形性股関節症を例に学ぶ。	
8	頸椎症	頸椎症についての病態を理解し、適切な評価を選択し実施する。治療及び運動や環境改善指導について学ぶ	
9	末梢神経絞扼①	胸郭出口症候群に関わる解剖学的知識を整理する。	
10	末梢神経絞扼②	末梢神経絞扼に関わる解剖学的知識を整理する。	
11	変形性膝関節症の評価と治療①	退行変性疾患の介入方法を代表的な変形性膝関節症を例に学ぶ。	
12	変形性膝関節症の評価と治療②	退行変性疾患の介入方法を代表的な変形性膝関節症を例に学ぶ。	
13	全人工膝関節置換術（TKA）症例の評価と治療	TKAの術式や術後リハビリ時の評価や治療のポイント	
14	末梢神経絞扼、変形性膝関節症の国試過去問の問題演習と解説	臨床に必要な知識を交えながら、国試過去問を解くことで理解を深める。	
15	理解度確認	筆記試験により理解度を確認する	
教科書・参考書・資料			
参考書：●脊髄損傷理学療法マニュアル 岩崎洋 編 ●文光堂 動画で学ぶ脊髄損傷のリハビリテーション 田中宏太佳・他 医学書院 ●資料：適宜資料を配布する			
判定基準／割合		履修上の留意点	
満点90点（小林45点 岡村45点） 平常点10点		実技を取り入れるので動きやすい服装を準備すること。	

PT3年	後期	講義概要	一般目標	
専門分野		理学療法対象者の大半を占める整形疾患（上肢・腰部）について、病理、治療法の概略を学ぶ。また脊髄損傷の病態とADL指導について学ぶ。	整形疾患（上肢・腰部）の治療・思考技術の基礎を身に付ける。疾患ごとの検査・測定項目や治療プログラムの立案ができるようになる。脊髄損傷においては病態を理解した上でのADL指導ができるようになる。	
整形疾患理学療法治療学Ⅱ				
専門分野	時間数 1			コマ数 30
理学療法学科：	○秋山,岡村			
作業療法学科：				
非常勤講師：				
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標		
1	肩関節に関する評価・治療（秋山）	広義の肩関節の動きを理解する。狭義の肩関節の動きを理解する。実際に肩関節の構成運動ができるようになる。		
2	肩関節周囲炎の病態・理学療法評価・治療（秋山）	肩関節周囲炎の病態・疾病概要を理解できる。鑑別診断を理解し症状を説明できる。各病期に対する理学療法の違いを説明できる。		
3	肩関節周囲炎の病態・理学療法評価・治療（秋山）	肩関節周囲炎の病態・疾病概要を理解できる。鑑別診断を理解し症状を説明できる。各病期に対する理学療法の違いを説明できる。		
4	腰椎疾患のおさらい（秋山）	腰部疾患における総論、下肢の筋肉、支配神経、デルマトーム、ミオトームの確認		
5	腰椎椎間板ヘルニアの理学療法（秋山）	疾患概要、理学療法評価、治療アプローチ、鑑別診断などを学ぶ		
6	腰部脊柱管狭窄症の理学療法（秋山）	疾患概要、理学療法評価、治療アプローチ、鑑別診断などを学ぶ		
7	二分脊椎症の理学療法（秋山）	二分脊椎症の疾病概要、シャラード分類・フォッファーの分類などを理解する		
8	骨折①（岡村）	骨の治療過程と治療方針について、骨盤骨折を例にして学ぶ。		
9	骨折②（岡村）	骨の治療過程と治療方針について、橈骨遠位端骨折を例にして学ぶ。		
10	末梢神経損傷（岡村）	末梢神経の治療過程と治療方針について、野球肘・外反肘を例にして学ぶ。		
11	腰部疾患の評価と治療（岡村）	腰部疾患、特に仙腸関節性疼痛の機能評価と治療学を学ぶ。		
12	腰部疾患の評価と治療（岡村）	腰部疾患、特に仙腸関節性疼痛の機能評価と治療学を学ぶ。		
13	脊髄損傷の病態①（岡村）	脊髄損傷により起こる病態（主症状と合併症）について理解し、適切な理学療法評価・対応方法について学ぶ①		
14	脊髄損傷の病態②（岡村）	脊髄損傷により起こる病態（主症状と合併症）について理解し、適切な理学療法評価・対応方法について学ぶ②		
15	理解度確認	筆記試験を行う。		
教科書・参考書・資料				
参考書：●千住秀明編『機能障害科学入門』SHINRYOBUNKO 2015 ●松村譲児他『病気が見えるvol.11 運動器・整形外科』MEDIC MEDIA 2017 ●その他必要に応じてプリントを配布				
判定基準/割合		履修上の留意点		
平常点：10点 素点：90点（秋山45点 岡村45点）		今後の実習を見据えたうえで、自ら疑問を持ち授業に臨むこと。		

PT3年	前期	講義概要	一般目標
専門分野		脳卒中、パーキンソン病などの中枢神経疾患の評価および治療について学習する。障害部位や時期による目的、方法論の違い、様々な方法論の背景にある神経生理学的現象について理解する。またコクランデータベースやPEDroなどのEBM論文を抄読し最新の治療法について検証する。	中枢神経障害による障害の特徴をとらえ、その対処法を身に付ける。
中枢神経疾患理学療法治療学Ⅰ			
専門分野	時間数 1 コマ数 30		
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：	○藤原 倉山太一		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	脳卒中に関わる神経系解剖の復習 (1)	脳の概観を描き、代表的な部位の名称と機能を述べる。	
2	脳卒中に関わる神経系解剖の復習 (2)	脳の膜構造、血管支配について述べる事が出来る。	
3	脳卒中に関わる神経系解剖の復習 (3)	脳室の立体構造を理解し、断層画像上の脳部位を認識できる。	
4	脳卒中に関わる神経系解剖の復習 (4)	脳機能解剖に関わる国家試験問題をマスターする。	
5	脳卒中の病態および診断 (1)	脳卒中の分類と原因について述べる。	
6	脳卒中の病態および診断 (2)	脳卒中で出現する脳機能障害について述べる。	
7	脳卒中の病態および診断 (3)	脳卒中に於いてDrが行う医学的処置について理解する。	
8	脳卒中の臨床所見 (運動障害・感覚障害) -1	脳卒中で起きる感覚・運動障害について述べる事が出来る。	
9	脳卒中の臨床所見 (運動障害・感覚障害) -2		
10	脳卒中の臨床所見 (高次脳機能障害)	脳卒中に合併する認知機能障害について述べる事が出来る。	
11	脳卒中の臨床所見 (合併症)	脳卒中に伴う合併症について述べる事が出来る。	
12	脳卒中の予後予測	脳卒中語の予後予測の方法を理解する。	
13	神経科学 (運動制御・運動学習) について	中枢神経系理学療法に関連する神経科学の概略について理解する	
14	脳卒中の評価 (1)	脳卒中で行う評価とその思考過程について理解する。	
15	理解度の確認	筆記試験にて判定する	
教科書・参考書・資料			
教科書：病気が見える 脳・神経 ：リハビリテーション臨床実習 医歯薬出版 ：よくわかる脳卒中患者さんの退院時必携書 Van medical			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点：10点 素点：90点			

PT3年	後期	講義概要	一般目標
専門分野		脳血管疾患の病態について、神経生理学的に学ぶ。神経生理学的根拠をもった介入について検討する。病態理解に必要となる中枢神経系の解剖学について、理解を深める。	中枢神経系の解剖を説明することができる。脳血管疾患の病態と介入の根拠について、神経生理学的に説明できる。
中枢神経疾患理学療法治療学Ⅱ			
専門分野	時間数 1 コマ数 30		
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：	○岡村		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	中枢神経系の解剖学①	中枢神経系の立体構造を説明できる。	
2	中枢神経系の解剖学②	中枢神経系の立体構造を説明できる。	
3	中枢神経系の解剖学③	中枢神経系の立体構造を説明できる。	
4	脳血管疾患	回復過程と病期について学ぶ。	
5	脳血管疾患	被殻出血の病態と症状について説明できる。	
6	脳血管疾患	視床出血の病態と症状について説明できる。	
7	脳血管疾患	クモ膜下出血の病態と症状について説明できる。	
8	脳血管疾患	中大脳動脈梗塞の病態と症状について説明できる。	
9	脳血管疾患	前大脳動脈梗塞の病態と症状について説明できる。	
10	脳血管疾患	延髄外側梗塞（ワレンベルグ症候群）の病態と症状について説明できる。	
11	動作評価（1）	寝返り～起き上がりまでの動作分析について述べる。	
12	動作評価（2）	起立・着座、立位アライメントについての動作分析について述べる。	
13	介入方法	脳血管疾患に対する治療・予防的介入について述べる。	
14	介入方法	脳血管疾患に対する活動・参加向上的介入について述べる。	
15	理解度の確認	筆記試験にて判定する	
教科書・参考書・資料			
病気がみえる②脳・神経（MEDIC MEDIA）、その他配布資料			
判定基準／割合		履修上の留意点	
業 点：90点 平常点：10点		特になし	

PT3年	後期	講義概要	一般目標
専門分野		スポーツ疾患治療学は、スポーツ傷害を中心に、病態、評価、リハビリテーションについて実技を含みながら講義を行う。	①スポーツ選手のリハビリテーションについて理解する。 ②スポーツ傷害の病態、評価を知る。③評価・リハビリテーション実技を修得する。
スポーツ疾患理学療法治療学			
専門分野	時間数 1 コマ数 30		
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：	○藤原 奥村麻耶,本間秀文,米須健太		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	スポーツ疾患理学療法治療学（概論）（奥村）	スポーツ選手のリハビリについて。理学療法士の役割。	
2	スポーツ傷害①（奥村）	ハムストリングス肉離れ。評価・リハビリテーションについて（実技含む）	
3	スポーツ傷害②（奥村）	ACL損傷・半月板損傷。評価・リハビリテーションについて（実技含む）	
4	スポーツ傷害③（奥村）	ACL損傷・半月板損傷。評価・リハビリテーションについて（実技含む）	
5	スポーツ傷害④（奥村）	腰部疾患。評価・リハビリテーションについて（実技含む）	
6	スポーツ障害⑤（奥村）	腰部疾患。評価・リハビリテーションについて（実技含む）	
7	※授業開始時に配布	※授業開始時に配布	
8	※授業開始時に配布	※授業開始時に配布	
9	※授業開始時に配布	※授業開始時に配布	
10	※授業開始時に配布	※授業開始時に配布	
11	投球障害①（本間）	総論	
12	投球障害②（本間）	投球動作と動作分析	
13	投球障害③（本間）	評価とアプローチ	
14	投球障害④（本間）	評価とアプローチ	
15	理解度の確認	本試験実施	
教科書・参考書・資料			
資料：適宜資料を配布する			
判定基準／割合		履修上の留意点	
平常点：10点 素点：筆記試験90点		実技を行う際は動きやすい服装をする。	

PT3年	前期	講義概要	一般目標
専門分野		呼吸のメカニズムおよび各疾病による障害を理解する。 呼吸リハビリテーションに必要な評価や理学療法の実際を実技を通して学ぶ。	①呼吸器疾患についての知識を身につける。 ②理学療法評価、治療を実践できる。
呼吸器疾患理学療法治療学			
専門分野	時間数 1 コマ数 30		
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：	○藤原 新堀健士		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	呼吸の構造	肺の組織、筋、神経について理解する。	
2	呼吸の機能	ガス交換、pH調節機構について理解する。	
3	呼吸器疾患の検査データの見方	血液ガス、スパイロメトリー、X線・CTの診方と結果の解釈について理解する。	
4	理学療法評価①	理学所見（視診、打診、聴診、呼吸困難）の評価。実技中心に行う。	
5	呼吸器疾患①	呼吸不全、COPD、気管支喘息	
6	呼吸器疾患②	間質性肺炎、肺結核	
7	呼吸器疾患③	肺炎	
8	呼吸器疾患④	かぜ症候群、インフルエンザ、肺水腫、胸水、気胸、過換気症候群、フレイルチェスト	
9	理学療法評価②	6分間歩行試験	
10	呼吸器疾患への理学療法プログラム①	リラクゼーション、胸郭関節可動域訓練について理解し実践できる。	
11	呼吸器疾患への理学療法プログラム②	排痰法、咳そうについて理解し実践できる	
12	呼吸器疾患への理学療法プログラム③	呼吸トレーニング、ストレッチング、運動療法	
13	包括的呼吸リハビリテーション	ADL指導、包括的呼吸リハビリテーション	
14	まとめ・復習	上記内容について国家試験問題演習を行う。	
15	理解度の確認	本試験実施	
教科書・参考書・資料			
資料：プリント配布 参考書：●病気がみえるVol.4 呼吸器 第3版 MEDIC MEDIA ●理学療法学ゴールドマスターテキスト 内部障害系理学療法学 柳澤健 著 MEDICAL VIEW ●動画でわかる 呼吸リハビリテーション 第4版 高橋仁美ほか編集 中山書店 ●第3版 リハ実践テクニック呼吸ケア 高橋仁美ほか編集 MEDICAL VIEW			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点：10点 素点：筆記試験90点		9～13コマ 実技を取り入れるので動きやすい服装を用意すること。	

PT3年	前期	講義概要	一般目標	
専門分野		小児の理学療法総論から各疾患についての理学療法を考え、総合的に学ぶ	正常発達を理解し、小児の代表疾患についての評価方法と治療方法について理解する	
小児理学療法治療学				
専門分野	時間数 1			コマ数 30
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：	○藤原 平野いづみ			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標		
1	後日配布する	後日配布する		
2	後日配布する	後日配布する		
3	後日配布する	後日配布する		
4	後日配布する	後日配布する		
5	後日配布する	後日配布する		
6	後日配布する	後日配布する		
7	後日配布する	後日配布する		
8	後日配布する	後日配布する		
9	後日配布する	後日配布する		
10	後日配布する	後日配布する		
11	後日配布する	後日配布する		
12	後日配布する	後日配布する		
13	後日配布する	後日配布する		
14	後日配布する	後日配布する		
15	理解度の確認	筆記試験にて実施		
教科書・参考書・資料				
イラストでわかる小児理学療法、Crosslink小児理学療法、配布資料				
判定基準/割合		履修上の留意点		
平常点：10点 素点：90点 筆記試験にて採点		動画やディスカッション、実技を交えて行うため動きやすい服装で出席してください		

PT3年	後期	講義概要	一般目標	
専門分野		老年期に生じる心身の機能障害を学び、老年期疾患に対する介入方法を理解する。	老年期における心身機能の変化やそれに伴う姿勢や動作の特徴について説明できる。また介入方法について説明できる。	
老年期理学療法治療学				
専門分野	時間数 1			コマ数 15
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：	○秋山 安藤龍治			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標		
1	重心動揺計 実技 (秋山)	重心動揺計の操作方法を理解する。またどんなデータが得られるかを理解する。		
2	重心動揺計 計算練習 (秋山)	得られたデータ (ロンベルグ率・単位面積歩長)などをどのように利用するか、実践する		
3	バランス・歩行能力に関する理学療法評価 実技1 (秋山)	ファンクショナルバランススケール、ファンクショナルリーチテストの理解と実践を学ぶ		
4	バランス・歩行能力に関する理学療法評価 実技2 (秋山)	TUG、10m歩行テスト、6分間歩行テストの理解と実践を学ぶ		
5	地域包括ケアシステム (秋山)	公衆衛生学の知識をもとに地域包括ケアシステムの概要、具体的実践例を学ぶ		
6	介護予防 (秋山)	介護予防に対する考え方と実際に行われている活動を理解する		
7	老年症候群 (秋山)	老年症候群の疾患概要を理解する		
8	予備日 (秋山)	項目1~7回分の復習を実施する		
9	能力毎で抱える問題と、それに応じて提供する理学療法について	ライフステージと精神面の変化、活動と参加の考え方について学ぶ		
10	年齢別で考える理学療法検査のとらえ方	理学療法検査における基準値の考え方について学ぶ		
11	予防フェーズの治療実例と考え方	健康増進・介護予防に視点をおいた理学療法の考えを知る		
12	介護予防につながる体操の考案と実践	健康高齢者が実践できる体操をグループで考え実践する		
13	医学フェーズの治療実例と考え方	加齢を考慮した上での、運動負荷や強度の設定、運動学習を効率よく進める手技を学ぶ		
14	介護フェーズの治療実例と考え方①	環境面からのアプローチを学ぶ、虚弱に対する理学療法を知る		
15	老年期症例を元に、ゴール設定の考案練習	能力に応じ症例をもとに、治療プログラムを立案する課題を行う		
教科書・参考書・資料				
配布資料				
判定基準/割合		履修上の留意点		
平常点：授業アンケート (8回×10点)、レポート10点 計90点 出席点 10点		積極的な参加を求めます。		

PT3年	後期	講義概要	一般目標	
専門分野		【代謝】糖尿病・高血圧症・脂質代謝異常症を学ぶ。また、運動療法における生活習慣病改善のためのプログラム立案ができることと、生活習慣病による合併症を呈した患者のケアの方法を学ぶ。【循環】循環器疾患の病態を理解し、心臓リハビリテーションに必要な評価や理学療法を修得する。	【代謝】生活習慣病の発生源と改善策・また生活習慣病にならない予防方法等を学ぶ。【循環】虚血性心疾患・心不全に対する理学療法的位置付けを学ぶ。また、運動療法プログラムの立案に必要な情報収集および、理学療法評価の項目とその臨床的意義を理解し、運動療法の効果判定を学ぶ。	
循環・代謝疾患理学療法治療学				
専門分野	時間数 1			コマ数 30
理学療法学科：	○秋山			
作業療法学科：				
非常勤講師：	新堀健士			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標		
1	代謝疾患全体の運動療法の知識、実技含む（秋山）	運動の5原則と3要素。有酸素運動、レジスタンス運動、ストレッチ運動の適応の違い。ウォーキングの週間運動量の計算。適切な歩き方、靴の選び方。		
2	高血圧症の病態、合併症、理学療法について（秋山）	・血圧の定義。正常範囲と異常範囲。合併症・リスクファクター。目標降圧レベルの数値。・血管をダメにする7つの生活習慣。		
3	脂質代謝異常症の病態、合併症、理学療法について（秋山）	コレステロールの種類。リポ蛋白とTGの説明。脂質代謝の3要素。正常値・異常値。目標心拍数と目標体重のポイントを説明し、実際にできるようになる。		
4	糖尿病の病態、合併症、理学療法について（秋山）	インスリンの作用。2つの定義。3大合併症。血糖値が低下した時の症状。1型と2型の違い。正常値・基準値。人工透析の仕組み。切断の発生機序。		
5	糖尿病の病態、合併症、理学療法について（秋山）	糖尿病理学療法の目的。運動を行うタイミング。糖尿病前教室の行う内容。教育入院における関わり。フットケアに対する関わり		
6	メタボリック症候群とその対策（秋山）	肥満のメカニズム。肥満の型。MSの説明、判定基準値。BMIの計算式、基準値。肥満の基準。目標体重設定。		
7	代謝疾患まとめ（秋山）	その他カロリー計算、最大心拍数の計算、運動負荷試験について		
8	心臓の解剖・生理（新堀）	心臓の解剖・生理を復習する。		
9	循環器疾患の検査①（新堀）	心電図、不整脈について理解する。		
10	循環器疾患の検査②（新堀）	不整脈、胸部X線、心エコー、CTと3DCT、CAGについて理解する。		
11	循環器疾患の病態①（新堀）	心不全の病態と理学療法		
12	循環器疾患の病態②（新堀）	狭心症の病態と理学療法		
13	循環器疾患の病態③（新堀）	急性心筋梗塞の病態と理学療法		
14	循環器疾患の病態④（新堀）	大動脈解離、閉塞性動脈硬化症、深部静脈血栓症、肺血栓塞栓症の病態と理学療法		
15	理解度の確認（秋山）	本試験実施		
教科書・参考書・資料				
【代謝】【循環器】資料：プリント配布 参考書：病気がみえるVol.2 循環器 第4版 MEDIC MEDIA 理学療法学ゴールドマスターテキスト 内部障害系理学療法学 柳澤健 著 MEDICAL VIEW 実践！離床完全マニュアル2 慧文社				
判定基準／割合		履修上の留意点		
平常点：10点 素点：秋山4.5点、新堀4.5点		授業への積極的な参加を望みます。		

PT3年	前期	講義概要	一般目標	
専門分野		臨床実習の場面で必要となる理学療法士のマナーから知識まで、患者像を題材に実践的に学ぶ。	患者に対する評価、問題点の把握、記録、考察、治療プログラムの立案まで、臨床技術を総体的に体験し、技能を身に付ける。	
理学療法技術論Ⅰ				
専門分野	時間数 1			コマ数 15
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：	○藤原,秋山,岡村			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標		
1	痰吸引について学ぶ①	該当部位の解剖学、使用道具、実施方法について学ぶ		
2	痰吸引について学ぶ②	該当部位の解剖学、使用道具、実施方法について学ぶ		
3	KJ法(秋山)	KJ法を理解するとともに、模擬症例を通じKJ法の使用方法を確認する。また、患者まとめシートの使用方法を確認する。		
4	KJ法(秋山)	KJ法を理解するとともに、模擬症例を通じKJ法の使用方法を確認する。また、患者まとめシートの使用方法を確認する。		
5	仮説検証シート(岡村)	仮説検証シートの使用方法について説明できる		
6	仮説検証シート(岡村)	仮説検証シートの使用方法について説明できる		
7	仮説検証シート(岡村)	仮説検証シートの使用方法について説明できる		
8	仮説検証シート(岡村)	仮説検証シートの使用方法について説明できる		
9	実習課題説明	技術論Ⅱで使用するワークシート、樹形図などについて説明する。		
10	実習課題説明	技術論Ⅱで使用するワークシート、樹形図などについて説明する。		
11	実習課題説明	技術論Ⅱで使用するワークシート、樹形図などについて説明する。		
12	実習課題説明	技術論Ⅱで使用するワークシート、樹形図などについて説明する。		
13	実習課題説明	技術論Ⅱで使用するワークシート、樹形図などについて説明する。		
14	実習課題説明	技術論Ⅱで使用するワークシート、樹形図などについて説明する。		
15	実習課題説明	技術論Ⅱで使用するワークシート、樹形図などについて説明する。		
教科書・参考書・資料				
参考書：石川朗『臨床実習フィールドガイド』南江堂 2008				
判定基準/割合		履修上の留意点		
平常点：授業への能動的参加・授業内作成物等により判定		技術論Ⅱ（プレ実習）で実施する内容との関連性を意識して取り組むこと。		

PT3年	前期	講義概要	一般目標	
専門分野		臨床実習の場面で必要となる理学療法士のマナーから知識まで、患者像を題材に実践的に学ぶ。	患者に対する評価、問題点の把握、記録、考察、治療プログラムの立案まで、臨床技術を総体的に体験し、技能を身に付ける。	
理学療法技術論Ⅱ				
専門分野	時間数 1			コマ数 30
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：	○小林,秋山,岡村,富永			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標		
1	臨床評価実習に向けて（藤原）	実習に臨むにあたり注意事項（実習生としての心構え、実習中の報告・連絡・相談、個人情報の取り扱い）を学ぶ。		
2	①ケーススタディー	臨床評価実習に向け、教員が模擬症例となり一連の理学療法評価・統合と解釈・問題点抽出・治療プログラム立案をグループで模擬体験する。		
3	①ケーススタディー	臨床評価実習に向け、教員が模擬症例となり一連の理学療法評価・統合と解釈・問題点抽出・治療プログラム立案をグループで模擬体験する。		
4	②ケーススタディー	臨床評価実習に向け、教員が模擬症例となり一連の理学療法評価・統合と解釈・問題点抽出・治療プログラム立案をグループで模擬体験する。		
5	②ケーススタディー	臨床評価実習に向け、教員が模擬症例となり一連の理学療法評価・統合と解釈・問題点抽出・治療プログラム立案をグループで模擬体験する。		
6	③ケーススタディー	臨床評価実習に向け、教員が模擬症例となり一連の理学療法評価・統合と解釈・問題点抽出・治療プログラム立案をグループで模擬体験する。		
7	③ケーススタディー	臨床評価実習に向け、教員が模擬症例となり一連の理学療法評価・統合と解釈・問題点抽出・治療プログラム立案をグループで模擬体験する。		
8	④ケーススタディー	臨床評価実習に向け、教員が模擬症例となり一連の理学療法評価・統合と解釈・問題点抽出・治療プログラム立案をグループで模擬体験する。		
9	④ケーススタディー	臨床評価実習に向け、教員が模擬症例となり一連の理学療法評価・統合と解釈・問題点抽出・治療プログラム立案をグループで模擬体験する。		
10	⑤ケーススタディー	臨床評価実習に向け、教員が模擬症例となり一連の理学療法評価・統合と解釈・問題点抽出・治療プログラム立案をグループで模擬体験する。		
11	⑤ケーススタディー	臨床評価実習に向け、教員が模擬症例となり一連の理学療法評価・統合と解釈・問題点抽出・治療プログラム立案をグループで模擬体験する。		
12	⑥ケーススタディー	臨床評価実習に向け、教員が模擬症例となり一連の理学療法評価・統合と解釈・問題点抽出・治療プログラム立案をグループで模擬体験する。		
13	⑥ケーススタディー	臨床評価実習に向け、教員が模擬症例となり一連の理学療法評価・統合と解釈・問題点抽出・治療プログラム立案をグループで模擬体験する。		
14	⑦ケーススタディー（発表）	臨床評価実習に向け、教員が模擬症例となり一連の理学療法評価・統合と解釈・問題点抽出・治療プログラム立案をグループで模擬体験する。		
15	⑦ケーススタディー（発表）	臨床評価実習に向け、教員が模擬症例となり一連の理学療法評価・統合と解釈・問題点抽出・治療プログラム立案をグループで模擬体験する。		
教科書・参考書・資料				
参考書：石川朗『臨床実習フィールドガイド』南江堂 2008				
判定基準/割合		履修上の留意点		
平常点：100点（発表・質疑応答：16点 ・提出物：84点（2コマ×6回：各7点））		ケーススタディーは実習着で参加すること。臨床評価実習しながら報告・連絡・相談は怠らず、提出物や時間の管理には十分留意すること。参加にあたっては清潔感ある容姿（頭髪など）であることが基本条件となる。		

PT3年	後期	講義概要	一般目標	
専門分野 臨床評価実習		学生は1名ずつ一カ所の病院または施設において、実習指導者の指導のもとに23日間の評価実習を実施し、症例ノート、デイリーノートおよびレポート、レジユメおよびの作成を行う。	3年後期までに学内で学んだことを基礎にして、実際の患者（対象者）に対して適切な理学療法評価の項目を自ら選択し、それを実施できる。また、その結果を標記できる。	
専門分野	時間数 4			コマ数 160
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：	藤原			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標		
1	・	23日間の臨床評価実習		
2	・	登院試験		
3	・	セミナー発表		
4	・	レジユメ作成		
5	・	・		
6	・	・		
7	・	・		
8	・	・		
9	・	・		
10	・	・		
11	・	・		
12	・	・		
13	・	・		
14	・	・		
15	・	・		
教科書・参考書・資料				
・				
判定基準／割合		履修上の留意点		
平常点：100%		実習の参加にあたっては、清潔感ある容姿（頭髪など）であることが基本条件となる（実習に即した容姿の在り方を各自が判断できるように）。		

PT3年	前期	講義概要	一般目標	
その他		授業開始時に模擬試験の目標点を設定し、達成するための計画立案、実行、修正を行う。グループワークとして他学年と協同して基礎科目（生理学）を学ぶ。	自ら設定した目標に対して主体的に取り組める。また目標達成にあたり、計画をたて、実行し、修正することができ、ある一定の成果を出せる。	
総合共同演習Ⅲ				
その他	時間数 1			コマ数 15
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：	○藤原,小林,秋山,岡村,富永			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標		
1	オリエンテーション	目標点の設定		
2	他学年とのグループワーク（生理学）①	グループワークの各議題において、内容を他学年へ指導することを通じて、基礎科目（生理学）の理解を深める。		
3	他学年とのグループワーク（生理学）②	グループワークの各議題において、内容を他学年へ指導することを通じて、基礎科目（生理学）の理解を深める。		
4	他学年とのグループワーク（生理学）③	グループワークの各議題において、内容を他学年へ指導することを通じて、基礎科目（生理学）の理解を深める。		
5	他学年とのグループワーク（生理学）④	グループワークの各議題において、内容を他学年へ指導することを通じて、基礎科目（生理学）の理解を深める。		
6	他学年とのグループワーク（生理学）⑤発表・聴講	理解した内容を表出、あるいは聴講し、他者と討論することを通じて学習内容の理解をさらに深めることができる。		
7	他学年とのグループワーク（生理学）⑥発表・聴講	理解した内容を表出、あるいは聴講し、他者と討論することを通じて学習内容の理解をさらに深めることができる。		
8	理解度の確認	筆記試験にて自ら立てた目標点の達成度の確認をする。		
9	.	.		
10	.	.		
11	.	.		
12	.	.		
13	.	.		
14	.	.		
15	.	.		
教科書・参考書・資料				
参考書：竹内昭博著 『Qシリーズ 新生理学』 日本医事新報社 2018				
判定基準／割合		履修上の留意点		
素点：筆記試験による目標到達点：40点 筆記試験による実力加算点：40点 平常点：提出物：20点		常に基礎科目（生理学）として授業に参加すること。グループワークであるため、疑問があれば積極的に先輩に質問し、問いを解決すること。		

PT3年	後期	講義概要	一般目標
その他		授業開始時に模擬試験の目標点を設定し、達成するための計画立案、実行、修正を行う。グループワークとして他学年と協同して基礎科目（生理学）を学ぶ。年生の実演を評価しつつ、基礎科目（解剖学・運動学）との関連性を学ぶ。	自ら設定した目標に対して主体的に取り組める。また目標達成にあたり、計画をたて、実行し、修正することができ、ある一定の成果を出せる。基礎科目の内容を専門科目との関連性も含めて説明できる。他者の実演を一定の指標を用いて評価、指導できる。
総合実践演習Ⅱ			
その他	時間数 1 コマ数 15		
理学療法学科：	○藤原,小林,秋山,岡村,富永		
作業療法学科：			
非常勤講師：			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	オリエンテーション	目標点の設定	
2	他学年とのグループワーク（解剖学・運動学）①	2年生の実演課題において評価者として参加する。基礎科目（解剖学・運動学）との関連性を学び理解を深める。	
3	他学年とのグループワーク（解剖学・運動学）②	2年生の実演課題において評価者として参加する。基礎科目（解剖学・運動学）との関連性を学び理解を深める。	
4	他学年とのグループワーク（解剖学・運動学）③	2年生の実演課題において評価者として参加する。基礎科目（解剖学・運動学）との関連性を学び理解を深める。	
5	他学年とのグループワーク（解剖学・運動学）④	2年生の実演課題において評価者として参加する。基礎科目（解剖学・運動学）との関連性を学び理解を深める。	
6	他学年とのグループワーク（解剖学・運動学）⑤	2年生の実演課題において評価者として参加する。基礎科目（解剖学・運動学）との関連性を学び理解を深める。	
7	他学年とのグループワーク（解剖学・運動学）⑥	2年生の実演課題において評価者として参加する。基礎科目（解剖学・運動学）との関連性を学び理解を深める。	
8	理解度の確認	筆記試験にて自ら立てた目標点の達成度の確認をする。	
9	.	.	
10	.	.	
11	.	.	
12	.	.	
13	.	.	
14	.	.	
15	.	.	
教科書・参考書・資料			
参考書：松澤正『理学療法評価学 改訂第5版』金原出版 2016			
判定基準／割合		履修上の留意点	
素点：筆記試験による目標到達点：40点 筆記試験による実力加算点：40点 平常点：提出物：20点		常に基礎科目（解剖学・運動学）との関連性を考えながら被検者として授業に参加すること。参加にあたっては清潔感ある容姿であることが基本条件となる。	

PT3年	通年	講義概要	一般目標
その他		国家試験に向けて、主に基礎分野の定着を図る。また、解剖学・運動学・生理学を理解したうえで臨床医学との相互理解を深める。(通年科目：計30コマ)	臨床実習でその知識を活用できるよう、講義では特に解剖学・運動学の範囲を中心に扱う。特に生理学においては、動画学習も含めて、自らに適した勉強方法を見つけることができる。
総合問題演習Ⅲ			
前期分			
その他 時間数 2 コマ数 60			
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：	○藤原,小林,秋山,岡村,富永		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	異常歩行と対応する義肢・装具	正常歩行を学んだのちに、異常が生じた際の義足・装具に対する目的・方法論を復習する。	
2	異常歩行と対応する義肢・装具	正常歩行を学んだのちに、異常が生じた際の義足・装具に対する目的・方法論を復習する。	
3	異常歩行と対応する義肢・装具	正常歩行を学んだのちに、異常が生じた際の義足・装具に対する目的・方法論を復習する。	
4	異常歩行と対応する義肢・装具	正常歩行を学んだのちに、異常が生じた際の義足・装具に対する目的・方法論を復習する。	
5	習得確認	小テスト実施	
6	正常歩行の復習	歩行周期の確認、各時期における筋収縮・関節角度を復習することで、歩行に関する知識を習得する	
7	正常歩行の復習	歩行周期の確認、各時期における筋収縮・関節角度を復習することで、歩行に関する知識を習得する	
8	正常歩行の復習	歩行周期の確認、各時期における筋収縮・関節角度を復習することで、歩行に関する知識を習得する	
9	正常歩行の復習	歩行周期の確認、各時期における筋収縮・関節角度を復習することで、歩行に関する知識を習得する	
10	習得確認	小テスト実施	
11	下肢の筋学復習	下肢の起始停止作用・神経走行	
12	下肢の筋学復習	下肢の起始停止作用・神経走行	
13	下肢の筋学復習	下肢の起始停止作用・神経走行	
14	下肢の筋学復習	下肢の起始停止作用・神経走行	
15	習得確認	小テスト実施	
教科書・参考書・資料			
特になし。			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点：100点（能動的参加点10点、小テスト（90点：15点×6）		講義で触れていない範囲に関しても解剖学・運動学・生理学の国家試験の出題範囲であれば試験範囲とする。各々、自らの課題意識をもって取り組むこと。	

PT3年	通年	講義概要	一般目標
その他		国家試験に向けて、主に基礎分野の定着を図る。また、解剖学・運動学・生理学を理解したうえで臨床医学との相互理解を深める。(通年科目：計30コマ)	臨床実習でその知識を活用できるよう、講義では特に解剖学・運動学の範囲を中心に扱う。特に生理学においては、動画学習も含めて、自らに適した勉強方法を見つけることができる。
総合問題演習Ⅲ			
後期分			
その他	時間数 2 コマ数 60		
理学療法学科： ○藤原,小林,秋山,岡村,富永			
作業療法学科：			
非常勤講師：			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	モーメント・重心の計算の復習	三角関数、モーメントの計算、重心の計算を含むバイオメカニクスの復習をする。	
2	モーメント・重心の計算の復習	三角関数、モーメントの計算、重心の計算を含むバイオメカニクスの復習をする。	
3	モーメント・重心の計算の復習	三角関数、モーメントの計算、重心の計算を含むバイオメカニクスの復習をする。	
4	モーメント・重心の計算の復習	三角関数、モーメントの計算、重心の計算を含むバイオメカニクスの復習をする。	
5	習得確認	小テスト実施	
6	上肢の筋 1	肩関節周りの筋を中心に学ぶ	
7	上肢の筋 2	上腕・肘関節周りの筋を中心に学ぶ	
8	上肢の筋 3	前腕周りの筋を中心に学ぶ	
9	上肢の筋 4	手周りの筋を中心に学ぶ	
10	理解度の確認	小テスト実施	
11	解剖学・生理学	骨格系を中心に学ぶ	
12	解剖学・生理学	神経系を中心に学ぶ	
13	解剖学・生理学	脈管系を中心に学ぶ	
14	解剖学・生理学	内臓系を中心に学ぶ	
15	習得確認	小テスト実施	
教科書・参考書・資料			
特になし。			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点：100点(能動的参加点10点、小テスト(90点：15点×6))		講義で触れていない範囲についても解剖学・運動学・生理学の国家試験の出題範囲であれば試験範囲とする。各々、自らの課題意識をもって取り組むこと。	

PT3年	通年	講義概要	一般目標	
その他		臨床評価実習で体験した症例について、レジュメ、レポートの制作を実施した上で、4年次の臨床実習や卒後の就職に向けた準備を行う	臨床評価実習での経験を同級生と共有・リフレクションする中で、学びを深める。臨床実習や卒後の現場を見据えた心構えができる。	
臨床思考演習Ⅲ				
その他	時間数 1			コマ数 15
理学療法学科：	小林			
作業療法学科：				
非常勤講師：				
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標		
1	症例セミナー	臨床実習後セミナーにて症例報告を見学する。		
2	症例セミナー	臨床実習後セミナーにて症例報告を見学する。		
3	臨床評価実習前登院試験①	臨床評価実習に向けた事前評価を実施する。		
4	臨床評価実習前登院試験②	臨床評価実習に向けた事前評価を実施する。		
5	評価実習後の症例・実習報告セミナー	症例ならびに実習についての報告を実施し、発表を体験する。		
6	評価実習後の症例・実習報告セミナー	症例ならびに実習についての報告を実施し、発表を体験する。		
7	添削会参加	2年生の評価学演習の授業に参加し、模擬症例の検査結果を考察する。		
8	添削会参加	2年生の評価学演習の授業に参加し、模擬症例の検査結果を考察する。		
9	.	.		
10	.	.		
11	.	.		
12	.	.		
13	.	.		
14	.	.		
15	.	.		
教科書・参考書・資料				
.				
判定基準/割合		履修上の留意点		
平常点：100%		.		

PT3年	後期	講義概要	一般目標
その他		理学療法研究に必要な知識や手順を理解した上で、リサーチクエスチョンを基に研究計画を立案できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自らが見いだした疑問について、先行研究の知見を他者に伝え、討議することができる。 ・リサーチクエスチョンから研究計画が立案できる。
卒業研究Ⅰ			
その他	時間数 1 コマ数 15		
理学療法学科： ○藤原,小林,秋山,岡村,富永 作業療法学科： 非常勤講師：			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	先行研究の検索・まとめ、研究計画の立案	担当教員の指導の基に、参考文献の収集を行い、現状の知見をまとめた上で研究計画を立案する。	
2	・	・	
3	・	・	
4	・	・	
5	・	・	
6	・	・	
7	・	・	
8	・	・	
9	・	・	
10	・	・	
11	・	・	
12	・	・	
13	・	・	
14	・	・	
15	・	・	
教科書・参考書・資料			
・			
判定基準/割合		履修上の留意点	
先行研究のまとめと研究計画を総合評価する。		各教員が開くゼミに出席し、指導を仰ぎながら研究を進める。研究計画の提出期限を厳守すること。	